

4. これからの小樽 …… どうする？！！

目 次



新たな魅力ある街小樽に

1 「参加型観光都市」小樽に

(既設を活用した参加型イベントの開催→滞在観光客増へ)

- | | | |
|----------------------|-------|---|
| A : 小樽トレイルランニング大会 | | 1 |
| B : 小樽坂めぐり駅伝スキークロス大会 | | 2 |

2 「スポーツ都市」小樽に

(レジャー・スポーツ施設の充実でイベントの開催→滞在観光客増へ)

- | | | |
|---------------------|-------|---|
| 《 小樽市望洋台スポーツランド計画 》 | | 3 |
|---------------------|-------|---|

3 「観光資源復活の街」小樽に

(古き良い観光資源を復活させる)

..... 8

新たな魅力ある街小樽に

1 「参加型観光都市」小樽に (既設を活用した参加型イベントの開催→滞在観光客増へ)

参加型イベントとは、小樽に宿泊してイベントに参加するたくさんの人をいう。

小樽では、現在、参加型イベント(スポーツ)は、「運河ロードマラソン」と「国際スポーツ雪かき選手権」の2つである。

よって、新たな参加型イベント(現在小樽の街にある施設を活用(使用)したイベント。)の企画を提案する。

以下に企画提案を示す。

A：小樽トレイルランニング大会

①競技概要

小樽トレイルランニング大会の開催は、2018年まで行われていた「ゆらぎトレイル・RUNin朝里川温泉」の継承大会とする

②競技コース

小樽商科大学をスタートし、旭山展望台、北照高校、自然の村を通り、天狗山山頂、ロングラインコースを下り、ゴールは……
天狗山ロープウェイ乗場までの約8km(既設の山道を使用する)

③競技時期

夏休み期間に実施したい



写真-2 2018年ゆらぎトレイル
朝里川温泉の様



写真-3 トレイルランニング
(ヤフー画像より)



図-7 小樽トレイルランニングコース (グーグルマップより)

B：小樽坂めぐり駅伝スキークロス大会

小樽の有名な坂を使用した、「スピード満点、スリル満載、転倒は当たり前。」の面白くバカバカしい大会である。
坂の両側に大勢の観客が、観戦できるイスやベンチを設置。夏場は、市民や観光客の休息場に活用。

①競技概要

冬季オリンピック種目であるスキークロスをイメージした競技である。
3名1組で参加し、駅伝形式で行う
スキーは、ゲレンデスキー、クロスカントリースキーなどなんでもOK



写真-4 スキークロス競技（ヤフー画像より）

②競技コース

小樽天狗山スキー場をスタート地点とする
第一走者は、千秋通りの坂を下る約1km区間。
第二走者は、緑第二大通りの平坦な約1km区間。
第三走者は、地獄坂を下る約1km区間
そしてゴールは、稲穂小学校までの総距離約3km
小樽の有名な坂を一気に下るスリルあふれる
スキー駅伝レースです。



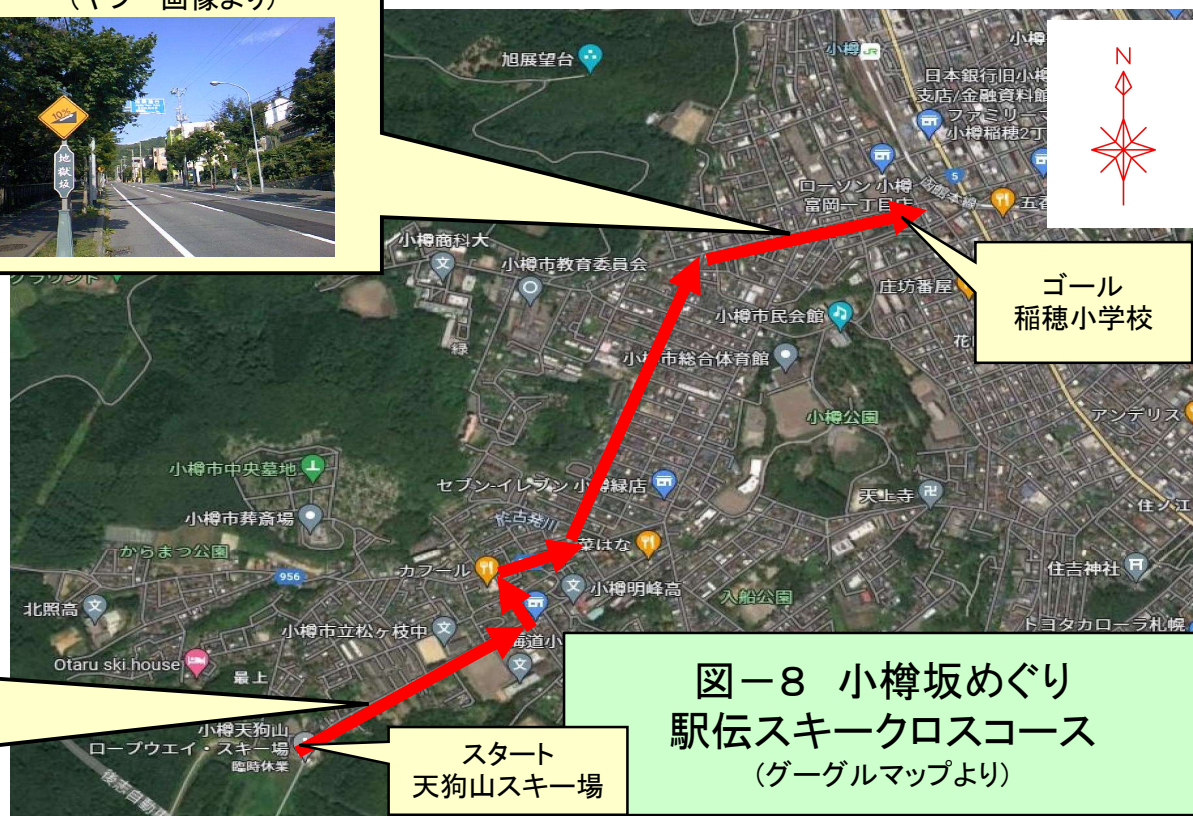
地獄坂
(ヤフー画像より)

③競技時期

雪あかりの路、終了後の2月下旬



千秋通り
(ヤフー画像より)



ゴール
稲穂小学校

スタート
天狗山スキー場

図-8 小樽坂めぐり
駅伝スキークロスコース
(グーグルマップより)

2 「スポーツ都市」小樽に (レジャー・スポーツ施設の充実でイベントの開催→滞在観光客増へ)

「レジャーとスポーツが融合した新たなスポーツ都市小樽」を目指す計画！

《 小樽市望洋台スポーツランド計画 》

小樽市の現状

現在、小樽市が所有している桜が丘野球場、手宮陸上競技場、望洋サッカーラグビー場には、大規模駐車場がなく観客を集められない。また、桜が丘野球場は公認野球場規則より約10m外野が狭い、手宮陸上競技場は第三種のためサブグラウンドがない、望洋サッカーラグビー場は観客席がないなど、大イベントが開催可能な施設とは言えない。

令和4年、札幌、小樽、函館、旭川、室蘭、釧路の6都市が市政100年を迎えた。各都市のスポーツ施設を比べると小樽だけが、プロレベルに対応した競技施設がなく、大イベントが開催できない街である。

どうする？・・・PGN！ アクセスが良く、広く、平坦な用地があった

小樽市望洋台地区(現在、望洋サッカーラグビー場がある地区)に着目。(図-7参照)

① 望洋サッカーラグビー場の隣接地には、未使用の広大な土地(約10ha)がある。

その土地は、旧マリンヒルホテル小樽用地とシャンツェ用地である。ここは、すでに開発された土地なので、伐採や造成工事が完了しており、スポーツ施設建設には、工事費が安価となる利点がある。

② 最高の利便性 → 将来、新幹線新駅から車で10分と最高の立地

この地区は、道道956号から約0.5kmと近く、アクセス道路は舗装した市道がある。また、上下水道が完備している。さらに、道道956号と市道の交差点には、ローソンがあり、その隣に小樽駅からの路線バス停留所がある。自家用車のアクセスは、札幌道朝里ICから約3km(約5分)と最高の立地である。

③ 最高の地形と気候

この地区は、北東から南東方向に開けており、他の3方向側(北、西、南側)は、山に囲まれている。

小樽は、風の強い街であり、4月から9月は南風が多く、10月から3月は西風が多い。よって、この地区は、風が吹いてくる方向に山があるので、比較的風の影響を受けず、過し易い土地である。当然、スポーツにとっては、風の影響が少ないことは最高の利点となる。

④ 既存施設を一体化してスポーツランドへ

既設望洋サッカーラグビー場と既設パークゴルフ場(小樽グリーンパーク)間に望洋野球場、キャンプ場、スケートボード場等を建設し、一体化することで集客が期待可能なスポーツランドが誕生する。

スポーツランドとは・・・レジャーとスポーツの融合エリア

スポーツランドとは、スポーツ施設とレジャー施設を取り入れ融合させ、子供から老人まで集まる場所をつくり、「やる・見る。」の双方が体験できるエリアである。エリア内は、老人が好むパークゴルフとテニス、子供に人気急上昇(東京オリンピックで話題となった)スケートボードとクライミング、親子が楽しめるキャンプ場(遊具広場含)を建設する。また、野球やサッカー、ラグビーの試合観戦が楽しめる場所でもある。これからの小樽は、学生からプロまでスポーツイベントが開催可能なスポーツ都市となり、多くの観客が集まる街としたい。さらに、小樽に住んでスポーツを楽しみたい人が増え、人口減少の歯止めになれば最良である。

小樽望洋スポーツランド施設概要

1. 望洋サッカーラグビー場(既設)
(芝生2面に観客席設置、クレー1面)
2. 望洋野球場計画
(左翼100m、右翼95m、中堅120m、観客席設置)
3. 管理棟改修(旧マリンヒルホテル小樽の活用)
4. 駐車場計画(200台)
5. キャンプ場計画
(遊具広場計画、テニスコート(2コート、4面)改修)
6. パークゴルフ場(既設)
(小樽グリーンパーク 45ホール)
7. スケートボード場計画(1500m²)
8. クライミング計画(ホテル壁を利用)
9. ソリ滑り計画(ランディングバーン利用)
10. ホテル計画
11. ドックラン計画
12. イチゴ園、果樹園計画
13. 臨時駐車場計画(冬場、排雪場)
(250台、大型30台)

令和4年の小樽市望洋台



写真-6 小樽市望洋シャンツェ
(平成10年完成 建設費14億円)
(平成28年4月 廃止)
現在、キャンプ場として利用
(ヤフー画像より)



望洋シャンツェ
スタート小屋
(平成28年4月廃止)

小樽グリーンパーク(平成22年開業)

旧マリンヒルホテル小樽
(平成24年9月閉館)

小樽市望洋サッカーラグビー場
(平成16年開業)

写真-5 小樽市望洋台からの眺望(石狩湾、増毛連山)



写真-7 小樽市望洋サッカーラグビー場&管理棟
(平成16年完成 建設費12億5千万円)
(小樽市HPより)



写真-8 旧マリンヒルホテル小樽
(平成24年 閉館)(ヤフー画像より)



写真-9 小樽市グリーンパーク(平成22年 開業)

以下、小樽市望洋台スポーツランド施設計画の概略を見てね。

① 小樽市望洋サッカーラグビー場(平成16年 完成。建設費12億5千万円)

現在のサッカーラグビー場を使用する。芝2面のサッカーラグビー場にできる限りの観客席を設置する。また、管理棟は現在の施設を使用する。

② 望洋野球場計画(観客10,00人程度)

施設概要に記載した寸法の野球場を建設する。内野スタンドは、桜が丘野球場と同じ切土法面方式を採用し、コンクリート構造物は建設しない。特に野球場は、工事安価な計画とする。

写真-11より、新野球場とレンガ調の旧マリンヒルホテル小樽との調和が、「小樽らしさ」で素晴らしい。



写真-11 望洋野球場(イメージ)
ライト側に管理棟(旧マリンヒルホテル小樽)(ヤフー画像より)

③ 管理棟計画

スポーツランド全体の管理棟として旧マリンヒルホテル小樽の建物を一部改修して再利用する。

④ 駐車場計画

望洋野球場と望洋サッカーラグビー場の間に200台の駐車場を計画する。

この部分は、現在も駐車場及び道路部なので工事も安価となる。

また、イベント開催時は、冬場の排雪場を臨時駐車場として使用。(250台、大型30台)

⑤ キャンプ場(遊具とテニスコート4面)計画

旧マリンヒルホテル小樽のパークゴルフ場跡地の段丘部と平坦部を使用して、キャンプ場を建設する。また、子供用遊具は、傾斜部と平坦部に計画する。

テニスコートは、旧マリンヒルホテル小樽が建設(2面、4コート)した、ハードコートを改修して使用する。



写真-12 キャンプ場 (ヤフー画像より)

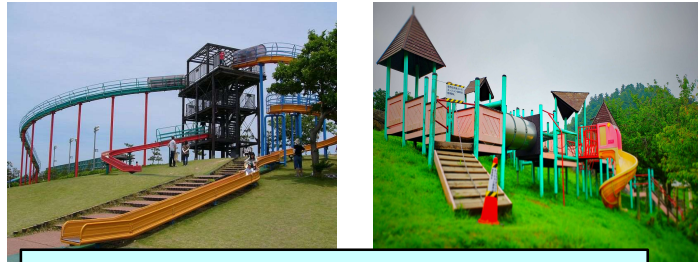


写真-13 子供用遊具 (ヤフー画像より)



写真-14 既設ハードコートを改修
(ヤフー画像より)



写真-10 望洋サッカーラグビー場(大会模様)
(ヤフー画像より)

⑥ パークゴルフ場(既設) (小樽グリーンパーク 45ホール)

景観を重視したパークゴルフ場で、パークゴルフと癒し(森林の温もり)を追求した北海道らしさ・・・を強調した施設である。将来新幹線が開通したときは、北海道、東北大会を企画しているので、是非このスポーツランドを完成させたい。



写真-15 パークゴルフ場(大会模様)

⑦～⑧ 2021年東京オリンピックで注目を浴びた新競技 : スケートボード場とクライミング場 計画

野外1500m²にスケートボード場を建設する。また、クライミングはホテル外壁に計画する。

将来新幹線が開通したときは、全国大会の開催を目指したい。



写真-16 スケートボード場
(ヤフー画像より)



写真-17 クライミング場
(ヤフー画像より)

⑨ ソリ滑り場計画(シャンツェバーンを利用)

夏冬ソリ滑りが、親子で楽しめる斜面を計画する。



写真-18 ソリ滑り(夏と冬)(ヤフー画像より)

⑩～⑪ (仮称)テレマークホテルおたるとドックラン計画

ホテルは、望洋シャンツェランディングバーン斜面(30度)に建設し、各部屋ベランダ付で石狩湾が望める。

シャンツェ最上部には展望スイートルームを設置し、石狩湾と増毛連山が望める最高の部屋を提供する。

全ての部屋が東向きなので、小樽新光町の街明かりの影響を受けず、星座がきれいに見える。

特に、夏場のペルセウス座流星群が各部屋から望めることが魅力的である。

また、親子で楽しめる施設(夏冬兼用ソリ滑り場、ホテルの外壁にクライミング場)を設置する。

ホテルはペットと宿泊可能とし、また、計画地にはドックランを設け、一般者も利用可能な施設とする。



写真-19 イチゴ園 (ヤフー画像より)

⑫ イチゴ園、果樹園計画

株式会社PGNが製造している有機肥料を使用して安全・安心なイチゴを育てる。そして、新たなスイーツ(イチゴパフェ、イチゴ氷、イチゴパンケーキなど)を提供。また、家族でイチゴ狩りも楽しんでください。

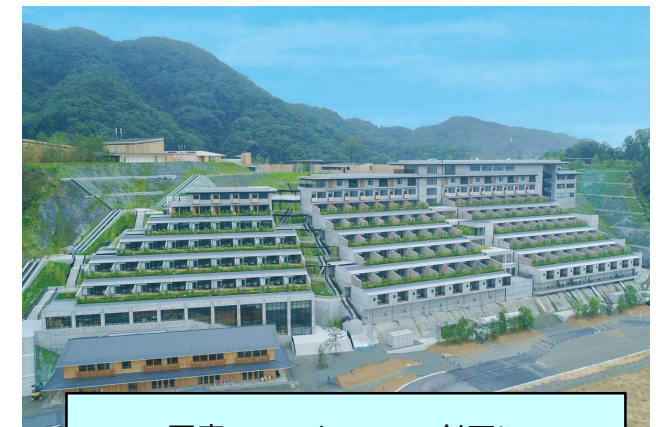
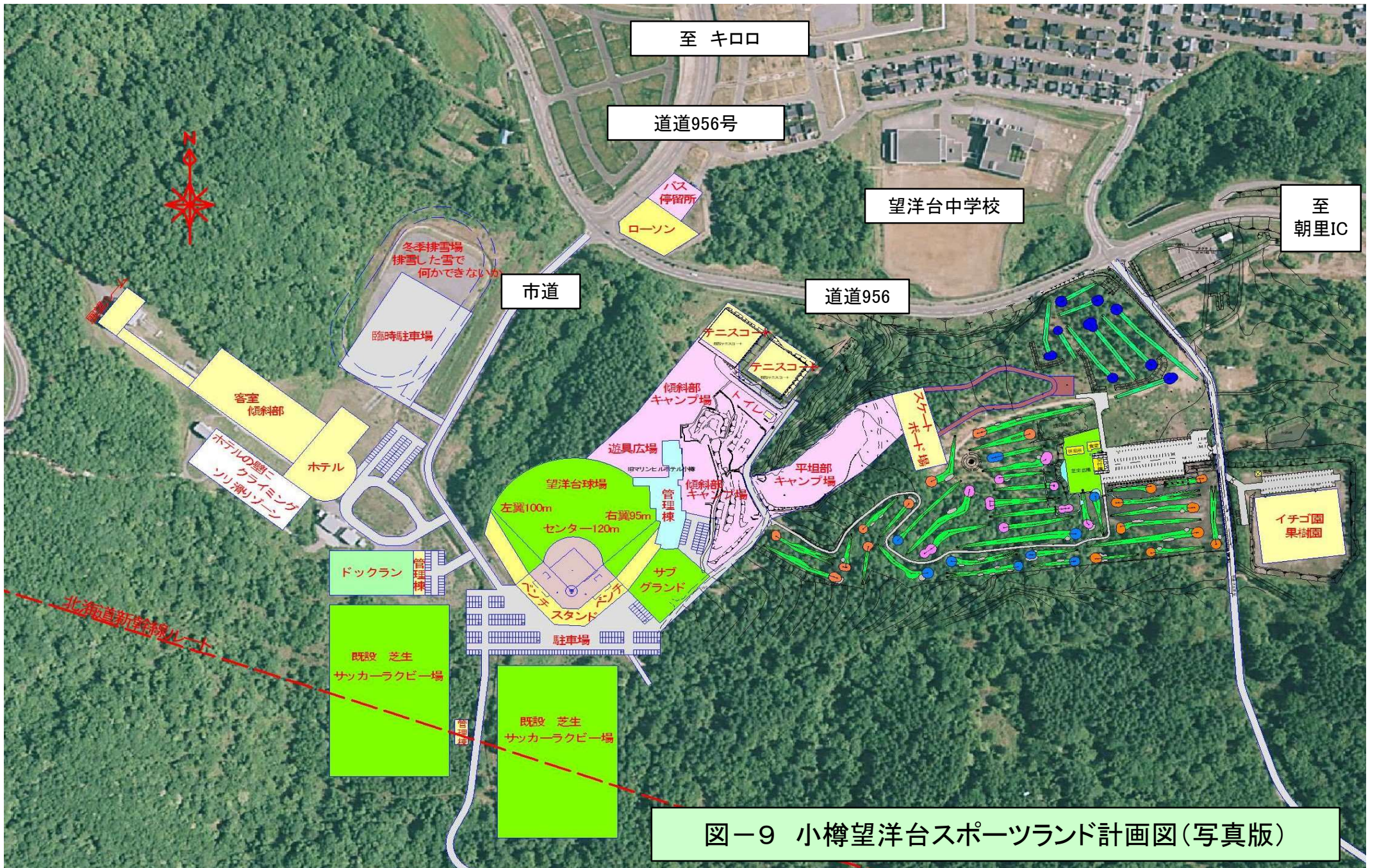
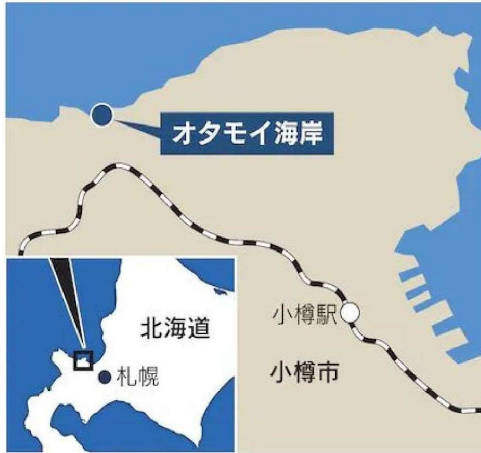


写真-20 シャンツェ斜面にホテルを建設(ヤフー画像より)



3 「観光資源復活の街」小樽に （古き良い観光資源を復活させる） ニトリホールディングス似鳥会長が語る小樽オタモイ海岸復活へ （日本経済新聞より）



オタモイ海岸はJR小樽駅から車で15分程度かかる。かつては海水浴場、演芸場を備えた遊園地があったものの、1952年に園内の高級料亭「龍宮閣」が全焼したのをきっかけに閉園した。海岸沿いに遊園地跡地まで続く遊歩道は、相次ぐ土砂崩れや落石で閉鎖したままだ。

小樽商議所は遊園地跡地への遊歩道とは別に、オタモイ海岸に沿った崖の上を進む全長およそ3キロメートルの新たな遊歩道を整備して岬の上にある広さ4000平方メートルほどの台地に展望デッキ「オタモイテラス」を建設する案をまとめた。



海拔150メートルに造るテラスから、海岸を一望できる。AR（拡張現実）技術を使って龍宮閣などを映し出す。遊歩道を冬場にはスノートレッキングとして活用する方針だ。遊園地跡地もグランピング施設や観光船の船着き場を整え、観光ガイドらが常駐するネイチャーセンターも設ける。運営主体や総工費など詳細は10月までに詰める。

視察には似鳥会長のほか、ニトリHD傘下のニトリパブリック（札幌市）の荒井功社長、小樽商議所の山本秀明会頭ら関係者が参加した。遊歩道の一部を歩いて標高200メートルほどのオタモイ山に登り、テラス候補地の岬を訪れた。



オタモイテラスの完成イメージ（小樽商議所提供）

ニトリHDは歴史的建造物を美術館に衣替えた「小樽芸術村」を運営するなど、小樽の観光資源を磨いている。札幌の西隣に位置する小樽は新型コロナウイルス禍前の2018年度には781万人の観光客が訪れたものの、うち9割前後を日帰り客が占める。宿泊者数の少なさが課題だ。

オタモイ海岸再開発に向けてニトリHDは21年、小樽商議所に調査費5000万円を寄付した。似鳥会長は「小樽で一日中観光して宿泊してもらうには、まだまだ観光施設が足りない。オタモイ海岸に50万人、100万人の観光客が集まるようになるといい」と述べた。



再開発費用の負担は今後の課題だ。遊歩道は舗装できておらず、大勢の観光客を受け入れるには柵の設置や階段の整備が不可欠だ。仮にロープウエーなどを建設すれば、さらに費用がかさむ。小樽商議所の山本会頭も「相当な金額がかかる」とみる。

似鳥会長は「会社または個人で出資する。もちろん観光協会や行政に参加してもらって運営すべきだが、私が言い出したのだから一番多く資金を出す覚悟はできている」と語る。

海外でも私財を投じて観光開発に乗り出す事例がある。米バージニア州にあるコロール・ウィリアムズバーグは、20世紀前半にジョン・ロックフェラー2世が資金援助をして18世紀の歴史的な町並みを復元した。